

中学校向け住生活出前授業「青森県の住宅と住まい方」（複数学年／90分）授業例

- ・ 「住まいの役割」及び「家族の生活と住まいのかかわり」の授業について、建築士を外部講師として導入した場合の授業例
- ・ 使用ワークシート：個人用とグループ用の2種類（平面図等）

	分担	項目	内容	時間	留意点
導入	教員	本時の目的	■本時の目的について説明 ・例)住まいの役割や機能を理解し、家族がともに生活するための住まいの工夫や配慮等について考える	5分	■GTは平易な表現(専門用語を避ける)を用いて話す事が望ましい。
		ゲストティーチャー(以下、GT)の紹介	■GTを紹介。GTは自己紹介兼ね挨拶 ・教員:GTの役割を説明する。(依頼者の様々な要求に応じて多くの住まいをデザインしてきた建築士より、家族のための工夫の仕方について講演をいただく) ・GT:普段どういう仕事をしているか等含めて簡単に自己紹介をする。		
展開	G T	講演① 住まいの役割	■住まい・住宅は何のためのもの？ ・そもそも住まい・住宅は何のためにあるのか、役割は何なのか ・本県と他県、津軽と南部の住宅の違い	10分	■読本p12～14及び使用教科書を意識
	教員	演習 家族構成に応じた住まいの空間の使い方	■提示された家族構成で必要な住まいの工夫点や配慮することを考える ・3種類の家族構成を提示しグループに割り当て、まずは個人で家族をどの部屋に住ませるか考えさせる。(理由と工夫した点を個人用WSに記入) ・記入した個人用WSをもとに、グループ内で考えを共有させる。 ・グループ内で家族をどこに住ませるかについて、意見をまとめる。(理由と工夫点含めグループ用WSに記入) ・他のグループとシェアリングし、良いところや気になったところを付箋に書いて貼る。→自分のグループへの意見を確認させる。 ■全体で共有する。 ・グループの代表にまとめた内容を発表させる。	40分	■例)3種類の家族構成 a.自分、父(家でも仕事する)、母、祖父 b.自分、兄(1学年違い)、父、母、ねこ c.自分、妹(5歳)、父、母、祖母(歩行困難の障害あり) ■各部屋の使い方では、既存のままでの使い方の工夫のほか、1部屋を2人で共有する場合のカーテン仕切りなどの工夫が考えられる。それぞれ理由も考えさせる。
	G T	講演② 家族の生活に配慮した設計事例を通して講演	■住まいや住まい方の工夫で家族がより幸せに ・演習の発表に対するアドバイス ・家族の生活を視点とした設計事例 ・リフォームや使い方の工夫により家族構成の変化等に対応した事例など	20分	■安全面や災害に配慮して設計した事例も紹介する。 ■帰ってから読本p18～19を使って家族で話し合うことをすすめる。
まとめ	教員	ふりかえり	■質疑応答 ・生徒にGTへの質問あれば聞く。 ■気付いたこと、感想 ・本時を通して気づいたこと、感想をまとめさせる。(個人用WSに記入) ■感想等を共有する。 ・書いたことを数人から発表させる。 ■GTから職業に関するコメントと全体講評。 ・GT:教員からのインタビューに答える形で建築士の仕事についてコメントする。 ・GT:発表内容から良かった点や不足していた視点等について講評する。	15分	■インタビュー例 ・なぜ建築士になろうと思ったのか？ ・建築士の魅力ややりがいは？ ・どうすれば建築士になれるのか？ ■GTは生徒の発表内容に否定的にならず、良かった点や「こうすればもっと良くなる」といった点を挙げるよう努める。